

前回の個別フォローで陽子さんから、私の今の思考で研究職が向いているのかという宿題を頂きました。

その後、学会発表など外部環境の強制力や、やはり研究は自分が力を入れて進まないといけないのだという思いが生まれて、向いているのかどうかは分からないけれど、向いていないからと言って諦めることが出来ないからやるしかないという、大学受験の時に思ったのと同じような気持ちが湧いていました。

たまたま重なった出来事で、退職(転職)する後輩女性が、同じように研究志向があったということが分かりました。

私が上司からの評判を恐れて研究への思いを隠そう、伏せようとしていたことは、自分のためにも、周りの後輩のためにもならなかったと実感しました。

彼女の転職について、自分でも驚くほど落ち込む気持ちがあったのですが、陽子さんからは、会社が惜しいと思うほどの能力を本当に保有していたのかという疑問も示されました。

本当に優秀な若手であれば、外から見て分かる成果を出してこれまでに見出されているのではということでした。

成果を出せる人はどこにいても出せるはずということでした。

この観点は自分から抜け落ちていました。不必要に会社の上司や自分を下げていたのかもしれない。

私の職場のカルチャーとして、人と人の距離が遠い傾向があるという話もありました。

規模が大きくなってしまった故に、最初からそこで得られること(甘い汁)を目的として入社する人も増えているというこ

と、半分はそういう人がいると割り切り、そうではない残り半分しか、自分がどうこうできる対象ではないことも伝えられました。

また、中間管理職は部下の前で上司(社長)のことを否定する発言はしないという、中間管理職である陽子さんが心がけていることも伝えてもらいました。

こういう覚悟を持たないと管理職を務めることはできないのだと思います。

陽子さんから、私が一馬力なのに工夫や頑張りで二馬力になれるんじゃないかという幻想を持ってやっていたのは、正常な判断が出来ない状態で進んでいたようなもので、それは危険なことだと伝えられました。

ようやくこれまで陽子さんが伝えてきたことに少しは耳を傾けてもらっている気がするということ、どうしてこれまでは聞けなかったんだろうと質問されました。

現時点で私が考えた理由は、自分に対する、自分なら出来るはずという「過大評価」だったと思いました。

私が一番きついと思っていた時期、人を遠ざける方向に行動するようになった時期に、聞く耳を持ってもらうにはどうしたらよいと思うと質問を頂きました。

当時は言ってもらいたかった言葉は「大丈夫」というものでしたが、防御する気持ちが強くて、新たな人と知り合いたいと思っていなかったし、初めて会った時に聞いてもらうのは本当に厳しい思いました。

陽子さんからは、そこで一撃で耳を傾けてもらえるような人になるしかないと伝えられました。

外見から昔の自分が耳を傾けたいくなるような人となりが伝わるように訓練を積むしかないということです。

防御する気持ちが強かった私でも、もし今の私と陽子さんが並んだら、陽子さんに聞いてもらいたいとなるんじゃないか、自分のことはよく分かっているのは自分のはずなのにそれはよくないよねという話になりました。

陽子さんが12歳の自分に出会いたかった大人になるために日々努力している話は聞いていましたが、年々変わる自分の年齢に合わせて、12歳の自分に対するアプローチが変わるはずなので、生涯かけて、訓練を止めずにやっているということも知りました。

過去の出来事をあの時があったからこそ今の自分がある、これでよかったと思えるように、その感情を自分の手で取り戻すために、人生ずっと訓練が続いていくのだということを改めて思いました。

お忙しい中で時間をとって頂き、ありがとうございました！

(A.S 40代女性 大阪府)